

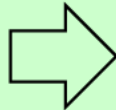
観光農園・直売と土地利用型農業の複合経営による収益の向上 ～有限会社 玉城ふれあい農園～

経営体の概要

平成3年

基幹作物：水稲、小麦、大豆、いちご

経営面積：38ha（うち、いちご0.8ha）



平成28年

基幹作物：水稲（主食用米、飼料用米）、小麦、いちご、ぶどう、菌床しいたけ等

経営面積：41ha（うち、園芸1.3ha）

取組の経緯と経営転換のポイント等

前身の勝田農事実行組合は、農業構造改善パイロット事業(S38)により、ほ場整備を実施し、地域の水稲・小麦の作付を担ってきた。

その後、平成元年に観光いちご園を開設、平成3年に法人化した。現在は、安定的に確保されている用水を利用し、いちご狩り、直売、観光バス受け入れ等を行うとともに、登録会員向けの宅配、ホテルとの米の直接取引、ジャムの製造等、園芸を主体とした収益向上を図っている。

営農改善のポイント

①作物の変化（土地利用型農業主体から園芸主体へ）

以前は、水稲の春作業といちご収穫作業の重複があり、いちごに労力をかけられず収穫できないことで株が弱り、いちごの収穫期間が短かった。このため、平成元年に観光いちご園を開設し、客が摘み取ることで長期間の収穫を実現した。現在は、いちごの他にぶどう、さつまいも、じゃがいも、しいたけの栽培も行っている。



野口 代表

②観光農園・直売・宅配等の多様な流通・販売ルートの確立

観光いちご園の年間来場者数は、開園当初約2千人であったが、平成5年の伊勢自動車道・玉城インターの開設以降は増加しており、現在では年間約2万人となっている。

品目毎の出荷割合は、いちごは、いちご狩り＋直売8割、JA2割、米はホテルとの契約＋直売5割、JA5割、小麦は全量JA、菌床しいたけは全量直売となっており、多様な流通・販売ルートを確立している。

会費制の登録会員（約100名）を対象に、「米、いちご、ぶどう、しいたけの4品目の宅配と、じゃがいも掘り・さつまいも掘り招待、いちご狩りペア招待券」をセット販売しており人気がある。

園芸に力を入れており、現在の売上は、土地利用型と園芸で半々だが、今後は、いちごの単収増等による収益向上を図っていく方針である。



いちごハウス



菌床しいたけハウス

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業

関係市町：三重県伊勢市、多気町、明和町、大台町、玉城町

受益面積：4,681ha

事業期間：平成7年～平成24年

事業目的：用水改良、畑地かんがい

主要工事：調整池1ヶ所、頭首工1ヶ所、導水路(改修)

15.4km、幹線用水路等23.8km、水管理施設 宮川用水第二期地区

位置図（三重県）



<問い合わせ先>

東海農政局
農村振興部農村環境課
営農指導係
電話：052-223-4631

（平成28年度調査時点）